

「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」(第8回)

令和3年8月6日に、「常呂川下流地区水害タイムライン検討会(第8回)」をオンラインにて開催しました。タイムラインは、地域住民の円滑な避難を図るために必要な行動項目やタイミングを関係機関と連携して検討し、災害が発生する前までに安全な避難を行うための事前防災行動計画を策定するものです。今回の検討会では、これまでの検討会の結果を踏まえて作成した「常呂川下流地区(常呂自治区)水害タイムライン試行版」詳細表に基づく検証訓練を実施しました。

- 開催日時 令和3年8月6日(金) 9:00 ~ 12:00
- 実施場所 Web開催 (補助会場:常呂町多目的研修センター1階大ホール)
- 参加機関 北見市、網走開発建設部、網走地方气象台、北海道オホーツク総合振興局、陸上自衛隊、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会、JA北海道厚生連常呂厚生病院、常呂町農業協同組合、常呂漁業協同組合、きたみ市商工会、北海道電力株式会社、東日本電信電話株式会社、網走バス株式会社 計 15機関 57名

1. 開会挨拶

開会にあたり、座長である東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 松尾一郎客員教授より「昨今は自然災害のリスクが高い状態にある。特に今年は東北地方から北海道にかけて海面水温がとても高い状態が続いている。このため、台風が北上した場合、その勢力が衰えないまま北日本へ進む可能性があり、それだけの水害リスクが目の前にあることを全員が認識する必要がある。このような中、タイムライン防災は先を見越して早めに動くものであり、前倒しの防災対応というものが今求められている。前倒しの防災対応には水害そのもののほか、新型コロナウイルス感染拡大防止対策や避難所における関連疾患対策などのリスク対応も含まれており、真剣に取り組まなければ人の命は救えないということを改めて認識していただきたい。本日は、長丁場の訓練となるが、訓練を通じて常呂川下流地区水害タイムラインをさらに一歩前に進めて頂きたい」と開会挨拶をいただきました。



松尾一郎座長の開会挨拶

2. 検証訓練

今回は初のWeb会議による検証訓練となることから、はじめに事務局から情報収集・共有・伝達方法について説明が行われました。訓練は、常呂自治区での水害発生を想定したシナリオを用いてタイムライン運用開始の判断から開始し、タイムラインステージ2までは事務局による情報共有・伝達および意思決定を中心に訓練を行い、タイムラインステージ3以降は主に住民避難対応に関する行動や情報伝達について「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」に記載されている項目を参照しながら、各機関の防災行動の手順・流れを時間軸に沿って確認したほか、他機関との情報伝達のタイミングや流れ、伝達内容等を確認しました。



事務局によるTLステージ判断協議



常呂総合支所における訓練の様子

3. 講評

検証訓練後、検討会アドバイザーである日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター 根本昌宏センター長より「今回のWeb会議を使ったTL訓練では実際の災害対応にとっても近い形での訓練が出来た。集合型の訓練では無いリアルがあったのではないかなと思う。今回の常呂川下流地区での訓練の取り組みは全国でも最先端を行くものであったと感じている。今回の訓練では各機関で見た課題もあったはずであり、課題解決を通じたブラッシュアップは間違いなく住民の方々の安全に繋がるものと思う。また、今回の訓練で住民向けに出された情報がどの時点でどのように伝達されたのか、住民の方々が適切に行動することができるかをもう一度確認して欲しい。長時間の検証訓練、大変お疲れ様でした。」との講評を頂きました。



根本昌宏センター長

4. 連絡事項・閉会

事務局からこれからの本格的な台風シーズンに向けて連携と対応を依頼し、第8回検討会は閉会しました。